

8/24-30#4神聖な種族の領域としての神の王国の中で生きることによって、神・人の生活をする:Ⅰ.私たちは神から生まれているので神の種族です。私たちは神格においてではなく命と性質において神です。Ⅱ.神・人たちは、神の種族にあずかるための神聖な権利を持っています。Ⅲ.キリストにある信者として、**私たちは神・人の生活をしています:**ヨハネ3:3 ...まことに、まことに、私はあなたに言う。人は新しく生まれなければ、神の王国を見ることはできない。5 イエスは答えられた、「まことに、まことに、私はあなたに言う。人は水と霊から生まれなければ、神の王国に入ることはできない」。マルコ4:26 ...神の王国はこのようなものである。ある人が地に種をまき、27 ...その種は芽を出し伸びていく...28 地は自ずから実を結ぶのであり、初めに葉、次に穂、次に穂の中に穀粒が満ちる。29 しかし実が熟すると、直ちに人はかまを入れる。刈り入れ時が来たからである。Aキリストの中で、神は人の中へと構成され、人は神の中へと構成され、神と人は共にミングリングされて一つの実体となっています。それは神・人と呼ばれます。B神・人たち、神の子たちは、第一の神・人であるキリストの複製また継続です。C神・人は、神から生まれて神の命と性質にあずかっており、命と性質において神と一になり、こうして神を表現する人です。D神・人は神で構成され、神を彼の命、性質、すべてとして持っています。神・人は人であるが神であり、神であるが人です。Eキリストの人の生活は、人が神を生きて、神聖な属性で満たされ、ミングリングされ、浸透された人性の美德において、神の属性を表現することでした。F私たちは、第一の神・人の増殖また複製として、彼が生きたのと同じ種類の生活をすべきです。1主の神・人の生活は、私たちの神・人の生活の模範を設立しました。この模範は、十字架につけられて神を生き、それによって神が人性において表現されることです。ガラ2:20 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を...神の御子の信仰の中で生きるのです。2主イエスは、霊的で、聖い、勝利の生活を生かし出そうとしたものではありません。彼が生かし出した生活は、完全に神の新約エコノミーにしたがっており、神の新約エコノミーのためでした。3四福音書において、イエスが神・人の生活を生かし出しているのを見ます。使徒行伝において、弟子たちもそのような生活を生かし出しているのを見ます。4キリストは苦難の生活、すなわち苦難を受けた生活をしました。今や、私たちはキリストのパートナーであり、同じ種類の生活をしています。私たちがキリストのために苦難を受けると

き、私たちの苦難はキリストの苦難として神によって数えられます。5私たちはキリストの霊の満ちあふれる供給によって、自己を否み、キリストの死に同形化され、彼を大きく表現しなければなりません。ピリピ3:10 キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、6神・人の生活をした方は、今やその霊であり、私たちの中で、私たちを通して生きています。私たちは自己啓発と自分の天然の人を建て上げることを拒絶し、この方以外の何にも、私たちを満たし占有させてはなりません。それは、私たちが個人的にも、彼のからだである召会の中で団体的にも、彼を生き、彼を表現するためです。Ⅳ.キリストにある信者として、**私たちは神の王国の中で生きています:**A神の王国は、神ご自身です。マタイ6:33 むしろ、まず父の王国と父の義を求めなさい。そうすれば、これらの物はすべて、あなたがたに加えられる。B神の王国は、キリストにある神が、神聖な命とそのすべての活動との総合計であることです。C神の王国は、神聖な命の領域であり、この命が行動し、働き、支配し、統治して、命にその目的を完成させます。D神の王国は、神の命で構成された有機体であり、神が支配する命の領域です。その中で神は彼の命によって王として支配し、神聖な命の中で神聖な三一としてのご自身を表現します。E神の王国は、一つの領域であり、神聖な統治の領域であるだけでなく、神聖な種族の領域でもあって、その中にすべての神聖なものがあります:1ヨハネ第3章で、神の王国は神の統治よりも神の種族を指しています。2神は人と成って、人の種族の中へと入りました。人は神格においてではなく命と性質において神となって、神聖な種族の領域の中へと入ります。ローマ1:3 彼の御子に関するものです。この方は、肉によればダビデの子孫から生まれ、4 聖別の霊によれば、死人の復活から、力の中で神の御子と明示された私たちの主イエス・キリストです。3神聖な種族の領域の中へと入るために、私たちは神から生まれて、神聖な命と神聖な性質を持つ必要があります。4神が人を創造したのは、人の種類にしたがってではなく、神のかたちに、また神の姿にしたがってであり、人を神の種類、神の種族とならせました。5信者たちは再生によって神から生まれ、神格においてではなく命と性質において神の子供たちとなっています。彼らはアダムよりもさらに神の種族です:ヨハネ1:12しかし、すべて彼を受け入れた者、すなわち、御名の中へと信じる者に、彼は神の子供たちとなる権威を与えられた。13これらの人は血からではなく、肉の意志からでもなく、人の意志からでもなく、神から生まれたのである。14アダムは、神聖な命の外側の現れを持っているだけであって、神聖

な命の内側の実際を持っていませんでした。
② 私たち、キリストにある信者また神の子供たちは、神聖な命の実際を持っています。そして私たちは全存在が造り変えられて、主のかたちに同形化されつつあります。ローマ8:29 ...神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められた...それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。③ 私たちの第二の誕生、すなわち再生は、私たちを神の王国の中へと入れ、神の種族とならせました。④ 私たちは再生されて神類となっています。神の子たちとして、私たちは神の種類、神の種族です。⑤ 神のすべての子供たちは、神聖な種族の神聖な領域の中にいます。⑥ 信者たちは神聖な種族の中で、すなわち、神の王国の中で神・人です。⑦ 私たちは命の感覚によって、神聖な命の領域としての神の王国の中で生きます。⑧ 召会の中で、今日私たちは神の王国の中で生活しています。ローマ14:17 は、今日の召会生活が王国であることの強力な証拠です。14:17 なぜなら、神の王国は食べ飲みすることではなく、義と平和と聖霊の中の喜びとであるからです。⑨ 私たちは、私たちの新創造(神の王国の要素としてのキリストご自身)となっているその部分を活用するとき、神の王国の中に生きているのです。⑩ 勝利者は、キリストと神との王国を受け継いで、天の王国の実現の中へと入ることができます。Ⅴ.ヨハネによる福音書の中で私たちは、神聖な種族の領域の中の信者たちの生活の多くの面を見ます: A「私たちはみな、彼の豊満から、恵みの上にさらに恵みを受けた」(1:16)。B「私が与える水は、その人の内で源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至るのである」(4:14b)。C「私を食べる者も、私のゆえに生きる」(6:57b)。D「だれでも私に仕えるなら、その人は私について来なさい。そうすれば、私のいる所に、私に仕える者もいるのである。だれでも私に仕えるなら、父はその人を尊ばれる」(12:26)。E「私の父の家には多くの住まいがある。...私は...あなたがたのために、場所を用意しに行くのである」(14:2)。F「その日には、私が私の父の中におり、あなたがたが私の中におり、私があるあなたがたの中にいることを、あなたがたは知るであろう」(20)。G「だれでも私を愛する者は、私の言を守る。そして私の父は彼を愛され、私たちは彼の所へ行って、彼と共に住まいを造る」(23)。H「私の中に住んでいなさい。そうすれば、私もあなたがたの中に住む」(15:4a)。I「あなたがたが私の中に住んでおり、私の言葉があなたがたの中に住んでいるなら、何でも望むものを求めなさい。そうすれば、それはあなたがたにかなえられる」(7)。J「父が私を愛されたように、私もあなたがたを愛した。私の愛の中に住んでいなさい」(9)。K「これらの事をあなたがたに語ったのは、私の喜びがあなたがたの中にあり、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである」(11)。L「私がこれらの事をあなたがたに語ってきたのは、あなたがたが私の中で、平安を持つためである」。「私の平安をあなたがたに与える」(16:33a,14:27b)。M「聖なる父よ、あなたが私に与えてくださったあなたの御名の中で、彼らを守ってください。それは、私たちのように、彼らがーとなるためです」(17:11b)。N「あなたが私に与えてくださった栄光を、私は彼らに与えました。それは、私たちがーであるように、彼らもーとなるためです」(22)。O「私が彼らの中におり、あなたが私の中におられるのは、彼らが成就されてーとなるためです」(23a)。P「父よ、私がお願いするのは、あなたが私に与えてくださった者たちも、私がいる所に共におり、あなたが私に与えてくださった私の栄光を、彼らが見ることです」(24a)。

証 教師になりたての若い時は、あるべき教師像みたいなものがあって、それにしがたって行動していたと思います。そのため、児童に無駄に厳しい指導をすることがあったり、偏った熱心さがあったりしたと思います。しかし召会生活を送る中で、自分が王国のためでないことを悔い改めるようになってから、教師としてあるべき理想像に従ってではなく、神の義を自分の中心に据えることを学ぶようになり、ここ3、4年は、周囲からの期待というプレッシャーから解放されてきたように感じています。あるべき教師像によって行動するのではなく、目の前にいる児童に向き合うようになったので、児童がよく心を開いて話してくれるようになりました。言葉足らずの小学生の話ぶりでも、言い換えなどしながら気持ちに寄り添えるようになり、児童に対して平和を保つことができるようになってきたと思います。一方で同僚に対しては寛容になれない時が多々あり、まだまだ度量が広げられる必要があると感じます。児童からは「先生が楽しそうやから楽しい」、同僚からは「先生がめっちゃ笑顔やから安心する」と言われます。いろいろ問題は起きますが、笑顔になれるのは、召会生活の中で神の御前に歩み、喜びで満たされているからだと思います。神の王国とは、神が私たちにとって命であること、私たちの中で拡大すること、私たちの中で地位を占有すること、私たちの全存在を王として支配することです。神が私の中へと入られたことを感謝します。天の制御の下にいて、自分自身を義にしたがって対処し、児童・保護者・同僚に対して平和を保ち、神の御前で神と共に喜びで満ちている教師でありたいです。主イエスの御名を呼びます。私の内側で主が拡大してください。